

# 令和3年度 第1回 桐生市総合教育会議 議事録

1. 日時 令和4年1月13日(木) 午後3時30分～午後4時20分

2. 場所 桐生市役所 議会棟2階 正庁

## 3. 出席者

【構成員】 桐生市長 荒木 恵司

桐生市教育委員会

教育長 小林 一弘

教育長職務代理者 板橋 英之

委員 山野 玲子

委員 松本 昭彦

委員 飯山 千里

【事務局】 (市長部局)

共創企画部長 新井 利幸

企画課長 西條 敦史

スポーツ・文化振興課長 山田 和彦

青少年課長 星野 正史

企画戦略担当係長 金子 貴征

(教育委員会事務局)

教育部長 西場 守

教育部参事 飯泉 尚士

総務課長 小山 貴之

教育未来室長 原橋 貴史

学校教育課長 柴塚 雄太

教育支援室長 渡邊 真宏

生涯学習課長 藤川 恵子

新里公民館長 星野 次男

黒保根公民館長 柿沼 一盛

文化財保護課長 萩原 清史

図書館長 浅野 都

総務課庶務係長 大澤 路代

総務課庶務係 小林 奈美子

【傍聴者】 1人

【報道機関】 1社

#### 4. 議 題

(1) 今後の重点的に講ずべき施策等について

#### 5. 議事の概要

(開始：午後3時30分)

#### ○開会 〈司会：教育総務課長〉

#### ○あいさつ

桐生市長 荒木 恵司

皆様こんにちは。

委員の皆様におかれましては大変ご多忙のところ令和3年度第1回桐生市総合教育会議にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

平素から皆様方には教育行政をはじめとして、桐生市政に関わりましてお力添えいただいていることも重ねて感謝を申し上げます。

さて昨年度は桐生市教育大綱を作成するために様々なご意見や教育関係者ならびに桐生市PTA連絡協議会の皆様をはじめとする市民の皆様のご意見もいただき1年間をかけて第2期の桐生市教育大綱が策定されました。策定にあたりお力添えをいただきました皆様方には厚く感謝を申し上げたいと思います。今日はこの計画をより加速させるために、今後の重点的に講ずべき政策等について、皆様方からご意見を賜ればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、新型コロナの感染者がこのところ倍々と増えてきておりまして教育関係におきましても県内の高校等でクラスターが発生しております。桐生市でもいつ起きてもおかしくない状況ですので、本日の会議は1時間、4時半に終了する予定で進めたいと思いますので大変恐縮ではございますが、ご発言をいただく委員皆様にはお時間を考慮しながら発言を賜ればと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。以上です。

#### ○協議・調整事項 〈議長：荒木市長〉

(1) 今後の重点的に講ずべき施策等について

発 言 者	発 言 内 容
事務局 (教育部長)	「今後の重点的に講ずべき施策等について」ご協議いただくにあたり、事前に資料をお配りさせていただきました。 資料「第2期桐生市教育大綱に関わる主要事業」につきましては、一昨年12月に策定いたしました、第2期教育大綱の6つの基本方針ごとに、第六次総合計画に掲げた事業を関連事業として示したものです。 本内容に基づき、構成員の皆様におかれましては、「今後の重点的に講

発 言 者	発 言 内 容
	<p>すべき施策等について」ご協議いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。以上です。</p>
市長	<p>ただ今、事務局の説明がありましたが、教育委員の皆様から、ご質疑等をお願いいたします。</p>
板橋委員	<p>教育のDX化という事で質問させていただきます。GIGAスクール構想の一環としてタブレットが児童、生徒に配られて整備されました。それに伴って色々なことができるようになってきたという事で、今桐生市の方で学校運営の効率化を図るシステムの運用状況であるとか、eラーニングシステムを使った教育コンテンツの整備状況であるとか、その点をまず、ご質問させていただきたいと思います。それと、システムが入っただけで使えなければ絵にかいた餅になってしまうので、それを使うための先生方の研修の状況を教えていただきたいと思います。さらに、オンラインシステムを使った新たな教育方法についてどのようなことを考えていくのかを質問させていただきたいと思います。</p>
教育総務課長	<p>システムの整備状況についてお答えさせていただきます。小中学校の教職員用のシステム整備として、平成25年度より校務支援システム（㈱EDUCOMの「C4th：シーフォース」）を導入しております。校務支援システムは、学籍、出欠の状況、成績など、児童生徒に関わる様々な情報を一元的に管理する機能のほか、スケジュールや掲示板など、教職員の間で情報共有を図る機能などを備えた、校務の効率化を図るシステムです。小中学校の児童生徒用としては、令和2年度から令和3年度で整備したタブレットPCに学習支援ソフトのミライシードとeライブラリを導入しております。ミライシードは、協働学習・一斉学習・個別学習それぞれの学習場面に対応したタブレット学習用オールインワンソフトです。eライブラリは、多彩な機能とドリル問題を中心とした様々な教育用コンテンツにより、児童生徒の「主体的な学び」をサポートする教材ソフトです。商業高校の教職員用のシステム整備として、平成29年度より校務支援システム（㈱エフワンの「e-教務V3」）を導入しております。e-教務V3は、学籍、出欠の状況、成績など、児童生徒に関わる様々な情報を一元的に管理する機能などを備えた、総合型校務支援システムです。商業高校の生徒用としては、以前より5実習室に各44台のPCを整備し、マイクロソフトオフィスやアドビイラストレーター、プログラミングソフトなどを導入しております。</p> <p>また、令和2年度に整備したタブレットPCには、メタモジクラスルームを導入しております。メタモジクラスルームは、協働学習・一斉学習・個別学習それぞれの学習場面に対応したリアルタイム授業支援アプリです。以上です。</p>

発 言 者	発 言 内 容
学校教育課長	<p>教職員の研修の状況に関してご報告させていただきます。今年度各校におきまして情報主任を中心に活用の研修を進めておりますが、同時に教育研究所による学校単位での研修、各分掌の主任を対象とした研修、アプリやソフトの利活用研修などを行っています。また、学期ごとの指導主事による学校訪問等において、教員に対し、個別に教科ごとに指導助言を行い、個別の研修支援を行っています。アプリの活用方法等についての良い実践例を全ての学校で共有できるよう情報提供を行っております。なお今年度、県教育委員会の指定で清流中学校がICTの研究をしておりまして、授業を公開して研修の成果を各学校で共有できるようにしてまいりました。</p> <p>続きましてオンラインシステムを使った新たな教育方法についてご報告いたします。コロナの感染拡大に伴う学校閉鎖等に備えるため、オンラインによる授業配信や双方向授業の研修を一層進める必要があると考えます。現在までの研修を通して効果的なオンライン授業の研究を進めておりますが、タブレットの持ち帰りにつきましては各校で試行的に実施し家庭学習での活用について取り組んでいます。また学校でのタブレットの活用につきましては、例えば、学校行事、集会、体験的な活動においてゲストティーチャーによる授業実践、オンライン体験活動、国際交流など、オンラインシステムを活用した新たな教育方法は多くの工夫により可能となると考えます。教育委員会からの情報発信や各校の工夫等、オンラインシステムを活用した新しい教育方法についてのノウハウを蓄積し、市全体で共有を図り、充実を図る必要があると考えています。以上です。</p>
板橋委員	<p>非常に素晴らしいことだと思うのですが、どれくらいそれを活用するかによって学校によっては相当差がつくと思います。</p> <p>桐生市はデジタル教育が進んでおり、なおかつ自然豊かなところでバーチャルとリアルを融合した教育ができる、コロナに対して大変強い教育ができるという事をPRしていきたいと思っておりますので、ぜひご協力をお願いします。以上です。</p>
山野委員	<p>教育大綱の5番6番に関して子供の豊かな体験活動の場づくりについて質問させていただきます。コロナ禍で子どもたちの学校生活、地域での活動がかなりせばめられていることがこの2年間とても心配になったので質問させていただきたいと思います。文化芸術、スポーツに親しむ機会、本物に触れる機会のより一層の充実、それから市有施設へ子どもが集う環境づくり、そして子どもたちのために何かをやってみようという、地域の人材の活用、その辺りについて説明をお願いします。</p>
スポーツ・文化振興課長	<p>それでは現在の取組を中心にお話させていただきます。まず、文化芸術については、桐生市では文化振興事業として、桐生市スポーツ文化事業団</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>へ補助金を交付しております。桐生市スポーツ文化事業団が行っている事業のうち、子どもを対象とした芸術文化普及事業において、子ども対象のワークショップや親子で楽しめるコンサート等桐生市市民文化会館で行われる事業に参加していただくだけではなく、「落語」「狂言」「音楽」の分野でプロの実演家を学校に派遣し、本物の文化芸術を直に触れる機会を設けています。例えば「狂言」では人間国宝「山本東次郎」率いる山本会の狂言師を講師として派遣し、伝統芸能の持つ素晴らしさを体験してもらいました。</p> <p>また、「県民音楽の広場」と連動し、市内中学校の吹奏楽部の生徒を対象に群馬交響楽団団員による器楽セミナーを実施しております。また、優れた美術作品に触れる機会として、小学3年生から中学3年生までを対象に大川美術館の無料優待券を配布しております。今後も優れた文化芸術に触れる機会の充実を図ってまいりたいと考えます。</p> <p>一方スポーツについては、直近のイベントといたしまして、桐生市と日本生命との間で締結した包括連携協定に基づく事業として、日本生命に所属する桐生祥秀選手による「かけっこ教室&amp;トークショー」を令和3年11月23日に桐生市民体育館にて実施いたしました。東京オリンピックにも出場された、日本最高峰の陸上選手である桐生選手による小学生を対象とした親子でのかけっこ教室に194名、観覧者111名、総勢305名の方に参加していただき、市民に夢と活力を与えていただきました。</p> <p>また、市の主催事業である小学生ナイター陸上競技教室は、ウレタン素材の走路を有する日本陸上競技協会の公認施設である桐生市陸上競技場で実施し、技術の向上はもとより、本格的な施設の経験を通し競技意識の高揚を目指しています。こちらの事業は今年度、みどり市との共催として実施いたしました。</p> <p>その他、市の委託事業として桐生市スポーツ文化事業団が実施している、幼児や児童を対象とした「かけっこ、水泳、卓球、軟式野球、ちびっこスポーツ体験教室」など、幅広く各種スポーツ教室を開催し、子どもたちにスポーツに触れる機会を提供しています。</p> <p>スポーツにおける地域人材の活躍としては、市内には地域、主に学校単位ごとに少年野球や少年サッカーなどのチームが45団体ありますが、お子さんの親が指導者や審判として携わり、地域の人材として貢献していただいている状況です。</p> <p>今後も文化芸術、スポーツともに、子どもたちの豊かな感性や創造性を育む機会を創出し、本物に触れる機会の充実を図っていきたいと考えています。以上です。</p>
山野委員	桐生市スポーツ文化事業団の子どもたちに関する事業のピックアップ

発 言 者	発 言 内 容
	<p>について、ありがとうございます。山本会の狂言は、歴史もあり、長く続いている桐生らしい取組かと感じています。また、新しくできた体育館や陸上競技場を使って有名な選手を招致したり、コロナ禍ではありますが、色々ご尽力いただいて魅力ある事業をしていただけたと感じています。私は教育長からご紹介いただいて、青年会議所主催のミニ桐生に行かせていただいたのですが、コロナ禍の状況でも、子ども達が生き生きと活動する姿を見てすごくほっとしました。実際に子ども達に質問をすると「次はあの仕事をやってみたい。」等の声が聞くことができ、また主催者側に「これだけたくさんの方をお呼びするのは大変ですね」と伺ったところ、「皆さん、子どもの為なら、という事で快く集まってくださいました。」という生の声を聞くことができ、魅力ある事業の重要性を感じました。コロナ禍ということもありますが、子どもの数が減って学校単位でなかなか大きな事業ができないことが桐生市の現状だと思います。こういったところにも、お金や人手をかけて魅力ある活動を、桐生を好きになる子どもを育てる事業とも絡めて全庁的にしぼむことなく続けていってほしいと思いました。ありがとうございます。</p>
松本委員	<p>今、山野委員からの意見にもあったのですが、教育大綱の中で桐生を好きな子ども、桐生に対する愛着とか誇りとかそういったものを育てていくという事が謳われています。これは教育を進めるうえで、あるいは子育てをするうえで、人づくりをするうえで非常に大切な事だと思っています。その中で、すでに織物体験やサイエンスドクターの事業など、しっかりと取り組んでいただいていると思います。それらの状況について伺えたらと思います。</p> <p>また、それぞれの年代に好きな桐生があると思いますし、桐生を好きという事を考えていくうえで地域の人たちとどう関わっていくのか、地域人材をどういうふうに活用していくのかといくことも必要だと思いますので、その点についても伺えたらと思います。</p>
学校教育課長	<p>それでははじめに織物体験、サイエンスドクターなどの積極的な推進という事ですが、織物体験事業につきましては、現在、小学校3年生または、4年生の児童を対象に実施しており、それぞれの学校で社会科や総合的な学習の時間の活動として実施をしております。「桐生を好きな子供」を育み、特に、伝統文化の継承につなげることを目的として、桐生織物協同組合伝統工芸士に直接ご指導いただき、手織り体験をしたり、職人の技や工夫について体験することができるようにしております。</p> <p>また、サイエンスドクターにつきましては、群馬大学理工学部にご協力いただきまして、サイエンスドクターを市内幼稚園、小、中学校へ派遣し、子供たちに、科学のおもしろさを知ってもらい将来の地域産業を支える人</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>材の育成につなげていきたいと考えております。今後も地域の教育資源を生かした取組を拡充すること、桐生ならではの特色ある教育を推進することで、桐生への愛着、郷土を誇りに思う気持ちを育てていけるよう取り組んでまいりたいと考えております。</p> <p>続きまして、幼・小・中・高などの年代に応じた総合的な教育構想づくりでございますが、桐生ならではの特色ある教育を推進している中で、各学校・園におきましては、桐生市の豊かな自然、固有の歴史や伝統、人材など、それぞれの地域の貴重な教育資源を生かして、それぞれの発達段階に応じ教育課程に位置づけて系統的に指導できるよう取り組んでおります。幼稚園・小・中学校においては市有施設などの活用を通して桐生の良さにふれる体験活動、また、桐生市立商業高等学校においては、地域行事への積極的な参加や地元企業と連携した課題解決への取組など、児童・生徒の成長過程に応じた活動を行っております。</p> <p>なお、地域を教材にする事については、先生方が地域教材への理解を深めたり、発達段階に応じた学びのつながりを意識できるように、「地域教材資料集」を作成し、各校で活用できるようにしております。</p> <p>これらを一層充実させるためには地域の方々の協力が不可欠だと考えておりますので、今後も地域とのつながりを大切にしてご協力いただきながら子どもたちの発達段階に応じた支援ができるよう進めてまいりたいと思います。以上です。</p>
松本委員	<p>それぞれ地域の中で子どもたちをどう生かし育てていくのかという事について苦心していただいているという様子がよくわかりました。拡充も考えているというお話なのですが、やはりそれぞれの年代に応じて好きな桐生というものが様々あるし、子ども一人一人にとっての好きな桐生というものも色々あると思います。十把一絡げではなくて、子どもたち一人一人に応じて色々な好きな桐生をこれからも学べるような機会を提供していけるといいと思いますし、学校だけではなく社会に出てからも、桐生で活躍する、さらには桐生を出て世界で活躍する、そういう人材を育てるためにも、ベースとして桐生を好きな子ども達を育成していただくと桐生がますます充実していくと思います。よろしく申し上げます。</p>
飯山委員	<p>中学校の部活動について伺いたいと思います。授業だけでなく部活動は、生徒にとって生活の多くを占める部分だと思います。生徒数の減少や、先生方の負担を減らしていく必要性など、様々な問題を含みながらも、学校だけでは収まらないスポーツ・文化活動への多様な取組方を検討していくという必要性から、地域の指導者やスポーツクラブとの協力していくようなスタンスに対して、桐生市がどのような支援をしていく方針なのかを伺いたいと思います。</p>

発 言 者	発 言 内 容
学校教育課長	<p>中学生の部活動と地域の指導者、地域スポーツクラブとの協力等については、文部科学省の「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」の中で、休日の部活動の段階的な地域移行が求められています。そのため、体育協会や総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員会等の各団体と連携して運営方法や課題について協議するため、部活動検討委員会（仮称）を組織することがまず必要と考えております。令和4年度に具体的な準備をして令和5年度からは検討委員会を開催できればと考えています。以上です。</p>
飯山委員	<p>ありがとうございました。もう少し早く協議が始められればよかったという思いはありますが、準備をさせていただいているという事で心強く感じました。スポーツだけでなく文化活動にも言えることだと思しますので同じように検討していただきたいと思ひます。</p>
板橋委員	<p>桐生ならではの特色ある教育の充実というところで、群馬大学も協力していきます。その中でサイエンスドクター事業の状況について、また、今後の新たな取組についてお伺いしたいと思います。</p>
学校教育課長	<p>サイエンスドクター事業の状況についてご報告します。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策の中、可能な限りサイエンスドクター事業を実施しました。小・中学校への理科授業支援、自由研究等への支援については、感染対策を行いサイエンスドクターに各校へ訪問していただいたり、オンラインによる授業支援を行っていただきました。</p> <p>授業支援回数はコロナの影響を受け、コロナ以前と比較し、やや少ない実施回数となっておりますが、今後も継続していきたいと思ひます。</p> <p>「プログラミング教育の授業支援」については、更なる充実を図るため、サイエンスドクターを対象とした講習会を行い、コーディネーター・ロッキーを活用した授業について研修を行いました。</p> <p>例年行われている「サイエンスフェスタ」はリモート開催としました。「幼児プログラミング体験Ⅰ」を公立幼稚園7園で実施しました。さらに、「幼児プログラミング体験Ⅱ」を市内幼稚園、保育園、こども園の幼児を対象に美喜仁桐生文化会館国際会議室にて開催しました。子どもたちを集めて行う事業はコロナの影響で実際には集められないことも多くありますが、今月予定しておりました「サイエンスコミュニティⅠ、Ⅱ」の内容は配信という形で子どもたちに還元していきたいと思ひます。</p> <p>今後の新たな取組については、プログラミング教育の充実を図りたいと考えています。今年度の研修を活かして、授業支援の充実を図ってきたいと思ひます。具体的には、コーディネーター・ロッキー等の教材の購入、授業実践の改善等を考えています。</p> <p>コロナの影響でオンラインが多くなると思ひますが、サイエンスドク</p>



発 言 者	発 言 内 容
	<p>一事業で蓄積したノウハウをさらに学校教育活動に活かして行ければと考えております。以上です。</p>
板橋委員	<p>コロナ禍で大変だと思いますが色々と工夫していらっしゃると思います。プログラミング教育は、これから大変重要で、現在スクラッチを使っているのですが、どうしても遊びになってしまいます。AIが使用しているパイソンを使ってプログラミングを作成することは、子どもたちにも十分可能かと思えます。現在、清流中学校でパイソンを使ってプログラミングを作成しています。給食を自動で搬送するというプログラミングを中学生が取り組んでおります。そのような教育を桐生市で取り入れていく。パイソンは群馬大学で必修になっていますから、学生達は全員使えます。パイソンプログラムで小学校高学年位からプログラムを組ませる。そうすると拡張性がある、「これがAIにつながる。」というイメージができるのですね。あるいは自分でどんどん新しいプログラムを組めるようになっていきます。スクラッチではなくてパイソンプログラムで動くようなものを桐生市として統一で教育に取り入れていくと、すごく特色のある教育になっていくと思いますのでご検討のほどよろしく申し上げます。以上です。</p>
松本委員	<p>来年度から新しく始まる黒保根の義務教育学校というのはある意味では新たな学校の形で、これからの桐生の学校の状況を考えていく試金石になる、そういう取組なのかなと思います。それらについて、特にどんな形でスタートさせようと考えているのか、お話を伺えればと思います。</p> <p>また、地域と学校という事を考えた時に学校教育の中に地域の色々な人を使うという視点ももちろんあるのですが、例えば生涯学習の方から考えると、あるいは社会という全体を考えると地域の人たちが学校とか教育の場や、子どもたちに対していろいろな活躍の場ができる、生涯学習から見た地域人材の活用もできると思います。特に黒保根地区のように地域と密着しているところでは生涯学習から見た地域人材の活用も考えられると思います。そう考えると、学校教育だけではなくて黒保根地区全体の地域のリデザインということ、黒保根地域をどういう地域として捉えていくのかということも必要であると思うので、新しい黒保根地域の取組について伺いたいと思います。</p>
学校教育課長	<p>それでは開校の準備を進めております、黒保根学園についてご報告をさせていただきます。黒保根学園については少人数であることの強みを生かして子どもたちの教育を充実させていきたいと思えます。そのため3つの学校教育の柱、①少人数を生かした個に応じた指導、②英語教育、国際理解教育の推進、③地域に根差し地域と連携・協働、を目標に地域とともに具現化を目指します。また、9年間一貫した教育課程を組めるというのが強みだと思いますので、弾力的でゆとりある教育課程の中で子どもたちの</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>学びを充実させていきたいと思ひます。早期からの英語教育に関しましては、黒保根町で英会話講師を1人雇用していただいております。この英会話講師を活用しまして、小、中、近くの保育園を合わせて、一貫して英語に触れる活動から中学校での英語教育まで、教育課程を構想して英語教育に取り組みたいと考えています。現在まで黒保根小学校、黒保根中学校で総合的な学習の時間を中心に「地域を学ぶ」という学習を実施しておりますが、これも9年間の教育課程という事で見つめ直して、あらためて黒保根地域に関する学習というものも来年度スタートさせる予定です。このような教育課程の中で9年間一貫した教育で子供たちの成長を図ってまいりたいと思ひます。</p> <p>それから地域との関わりについてですが、現在も、黒保根小学校においては、学校支援センターに多数の方に登録していただき、学習支援、農業支援、読書支援、行事への支援など、様々な支援を実質的にいただいております。今までの取組を活かして新しい学校においても社会に開かれた教育課程の実現を目指して、地域の方々、保護者の方々に学校教育に関わっていただくように考えております。そのために新しい学校では「学校運営協議会制度」を導入し、コミュニティスクールとして一層、地域の意見や力を学校運営に反映できる環境を整え学校教育を進めていけるよう考えています。以上です。</p>
生涯学習課長	<p>黒保根学園との関係で地域人材との絡みという事ですが、学園に限らず、子どもたちが地域の中で学びの場を広げていくためには、学びの場そのものを作っていくことと同時に、それを支えられる人材を育成することが何より重要なことだと認識しています。学校教育課長から学校支援センターの話もございましたが、黒保根地区は今までも他の地区と比べても密接に教育に関わっていただいていると思ひます。試金石になるというお話もありましたが、地域が子どもたちとかかわることによって教育が充実していく、地域の教育力が向上していく、それが地域づくりにつながっていく、というような循環が生まれていく事が非常に重要な事だと思ひます。社会教育という観点でもいろいろな取組を考えていきたいと思ひます。以上です。</p>
黒保根公民館長	<p>黒保根地域が今取り組んでいることをご説明したいと思ひます。</p> <p>黒保根学園の開校にともない、地域とともにつくる学校「コミュニティ・スクール」の導入が行われるという流れの中で、「社会に開かれた教育課程」の実現のため、保護者・地域住民等も学校運営の当事者となり、子供たちの学びや体験の充実を図るものです。</p> <p>保護者や地域住民等が学校運営や教育活動への参画を、無理なくスムーズにするために地域学校協働活動の一体的推進を図る組織を構築するこ</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>とにより、西町インターナショナルスクール交流事業を含む、黒保根学園の特色ある教育の更なる充実が図れるものと考えております。</p> <p>現在、西町インターナショナルスクールとの交流につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、ここ2年間交流活動ができない状況が続いており、双方の児童・生徒は、大変悔しい思いをしております。</p> <p>そうした状況下ではありますが、昨年度は、保護者や地域住民等の協力を得る中、田植えは教職員が、稲刈りを黒保根の児童が行い、西町の児童へ収穫した黒保根のお米を送ることができました。</p> <p>西町側では、黒保根のお米で例年行っている餅つきが実施でき、お礼状と一緒におかきを全校児童に送ってもらうなど、黒保根と西町の児童は感謝の気持ちで繋がっており、貴重な心の交流を実施することができました。黒保根の児童は、合併以前から総合学習の時間を活用し、農業者（大塚慶治会長（農業支援隊）、新井良和さん）の指導のもと、田んぼ 998ha を無償でお借りする中で、春には種まきから苗おこしを行い、初夏の田植え、夏場の水の管理・除草作業、秋の収穫・脱穀、そして収穫祭では餅つき、それらお米ができるまでの全ての行程を体験しております。長年、保護者や地域住民等多くの人に支えられ貴重な体験を行っております。</p> <p>黒保根の子供たち、そして教職員の皆様にとっては、体験を通し農業の大変さ大切さを学ぶことで、自らを大きく変えることに繋がっております。また、児童のお米づくりは、多くの保護者や地域住民等が学校運営や教育活動に参画する要因となっております。以上です。</p>
松本委員	<p>お話を伺うと本当に縦の9年間の系統的な取組ということもありますし、横への繋がりという事でいえば地域、あるいは西町インターや他の学校と、どのように繋がっていくかということも検討されている、そういう意味で最初に申し上げたように今後の桐生におけるモデル校になると思います。大変すばらしい取組をさせていただいているようなのでぜひ充実させていただければと思います。以上です。</p>
市長	<p>ありがとうございました。それでは皆様のご意見を受け、最後に教育長からお願いします。</p>
教育長	<p>各委員の皆さん、ありがとうございました。全体を通してそれぞれの委員さんからは桐生ならではの特色ある教育についてお話をいただいたものと理解しております。子どもたちが知り、知識を体の中に受け、体験する、そういった事で郷土を愛する心情を育んだり、誇りに思う気持ち、そういったものが育てられるのだと思います。さらに、郷土からも自分たちが大切にされといると認識してつながりを持つ、ということが子どもたちの自己肯定感につながり、生きていく自信や力になっていく、そういうものだと思います。</p>

発 言 者	発 言 内 容
	桐生ならではの特色ある教育につきましてはこの後も庁内の他の部局とも連携、協力をしながら進めたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。
市長	ありがとうございました。本日大変貴重なご意見をいただきました。ただ今教育長の方からありましたとおり、本日協議させていただいた内容を踏まえて、他の関係部局、関係機関とも調整を図りながら、しっかりと取り組んでいきたいと考えております。

**○その他 〈説明：教育総務課長〉**

- ・ 次回の会議開催は現時点では未定。
- ・ 意見交換の場を設ける場合やその他の緊急な協議事項が生じた場合には、随時、日程等の調整をさせていただく。

**○閉会 〈司会：教育総務課長〉**

(終了：午後4時20分)